

## 十二 伊藤彰さん 伊藤源三郎叔父さん

昭和四年五月、私が三十四歳のとき、この日はどうしたのか、東京に出て来てからはじめて非常に身体の具合がわるいのです。しかしこの日、東京府立の工藝学校（水道橋のところにある学校）に講演に行く約束がしてあったので仕方なくその学校に出かけて行き、事務室で校長近藤栄助先生にお会いするため待っていたのです。近藤先生が校長室から来られ、「今日は珍しい人を紹介する。あなたのお兄さんをやした人です」といわれたのです。それで私は、兄をやした人といわれたので兄を知っている人だろうと簡単に考えながら校長室に入ったのです。そして紹介された人は、伊藤 彰という人でした。「伊藤彰」といわれたとき私はすぐ「伊藤猪久夫」という名を口にしたのでした。そうするとその人は「私はその弟です。」といわれたのでした。伊藤猪久夫という人は陸軍の大尉か少佐だったかと思うのですが、親戚にあたる人で子供のときからその名前だけは知っていたのですぐ口から出たのでした。

伊藤 彰さんはそのころ新潟県高田商工学校の校長をしておられる人でした。近藤先生とは無二の親友で、東京に出て来られるといつも近藤先生のところに来ておられたのだそうです。たまたまこの日も来ておられたのですが、近藤先生が「今日は珍しい講演がある。聞かないか」といわれたそうです。「それでは聞こう、どんな人か名前だけでも聞いておこう」といわれたので、近藤先生が私の名刺を出されたそ